

平成20年7月の解説（週間天気予報）

【7月の天候状況】

上旬は高気圧が西日本を中心に広く日本を覆い、各地とも晴れる日が多くなり、北日本では気温が高くなりました。中旬は北日本では天気が短い周期的で変わりましたが、その他の地方は晴れて気温の高い日が多くなりました。下旬は北日本では低気圧や前線の影響により雨で気温の低い日が多くなりました。その他の地方は晴れる日が多かったですが、東・西日本では27日から29日に局地的な大雨となりました。

月を通しての日照時間は、北日本では平年より少なくなりましたが、その他の地方は平年より多く、西日本ではかなり多くなりました。降水量は北日本では平年並みでしたが、その他の地方は大体平年よりかなり少なくなりました。気温は全国的に平年より高くなり、東・西日本ではかなり高くなりました。

【7月の検証結果】

「降水の有無」の適中率（3～7日目の平均）は全国平均では例年（注）より8ポイント高い73%でした。例年と比べて東海地方と西日本では11から20ポイント高くなりました。最高気温（2～7日目の平均）の予報誤差は全国平均では例年より0.2小さい2.4で、東北、関東甲信、北陸地方では0.5から0.7小さくなりました。最低気温（2～7日目の平均）の予報誤差は全国平均では例年より0.3小さい1.5で、各地とも大体0.3例年より小さくなりました。

（注）例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【7月の週間天気予報から】

週間天気予報では、予報は原則として府県ごとに、簡潔な表現で発表しています。雷雨が予想される場合、広い範囲で発生すると考えられるときなどには「晴れ一時雨」や「曇り一時雨」という雨の表現のある予報を発表します。ただ、雷雨は局地的に、また、短時間だけ発生することが多いので、このように雨の表現のある予報を発表すると、雨の降ったところでは「適中」、雨の降らなかったところでは「空振り」と感じ、雷雨の発生が局地的であればあるほど空振り、つまり、外れたと感じる人が多くなります。このため、雷雨が局地的で、広い範囲では雨が降らないと予想した場合は「曇り時々晴れ」や「晴れ時々曇り」といった雨の表現のない予報を発表します。このような場合は、通常、降水確率を30%や40%として、晴天が予想される場合より高く発表しています。また、概況でふれることもありますので、週間天気予報を利用する場合には天気だけでなく、天気と降水確率との関係や概況にも注目してください。

雷雨となった事例を紹介します。7月27日から29日にかけて、日本付近は上空の寒気と高気圧の縁を回る下層の湿った気流の影響で大気の状態が不安定となり、北日本から西日本の広い範囲で雷雨となりました。関東甲信地方でも広い範囲で雷雨となり、局地的に大雨となったところもあ

りました。

表 1 は7月24日発表の関東甲信地方の週間天気予報です。27日から28日にかけて関東地方の広い範囲で雷雨になると予想しました。29日も雷雨を予想しましたが、内陸部が中心で平野部では局地的と考え、平野部は「曇り時々晴れ」で「降水確率40%」として発表しました。実際には、上空の寒気や気圧の谷の通過のタイミングなどが予想と少しずれたために、27日は関東地方の広い範囲で雷雨となりましたが、28日は甲信地方を中心、29日は関東地方南部を中心とした雷雨となりました(図1)。

週間天気予報で雷雨を予想することは従来から難しいものですが、数値予報モデルの改良や予測手法の改善などによって、この事例のように、数日前からある程度予測できるようになってきました。しかし、雷雨の発生する地域や広がり の程度を正確に予報することは現在の技術では依然として困難です。

表1 2008年7月24日11時発表の週間天気予報による
7月27日から29日の天気と降水確率(%)

	7月27日(日)		7月28日(月)		7月29日(火)	
茨城県	晴れ時々曇り	30	晴れ一時雨	60	曇り時々晴れ	40
栃木県	晴れ一時雨	60	晴れ一時雨	60	晴れ一時雨	60
群馬県	晴れ一時雨	60	晴れ一時雨	60	晴れ一時雨	60
埼玉県	晴れ一時雨	60	晴れ一時雨	60	曇り時々晴れ	40
東京都/東京地方	晴れ一時雨	60	晴れ一時雨	60	曇り時々晴れ	40
千葉県	晴れ時々曇り	30	晴れ一時雨	60	曇り時々晴れ	40
神奈川県	晴れ一時雨	60	晴れ一時雨	60	曇り時々晴れ	40
長野県	晴れ一時雨	60	晴れ一時雨	60	曇り時々晴れ	40
山梨県	晴れ一時雨	60	晴れ一時雨	60	曇り時々晴れ	40

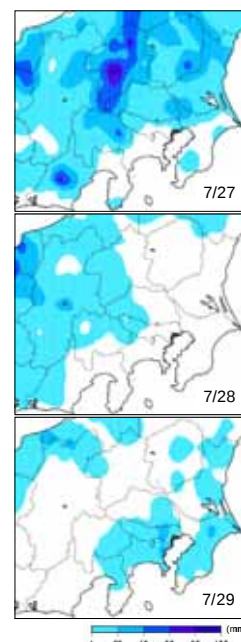


図1 2008年7月27日~29日のアメダスによる雨の分布

【9月の週間天気予報の利用にあたって】

秋になると梅雨の頃と同様に、日本付近で前線が停滞することがあります。この前線を秋雨前線と呼ぶこともあります。この前線の位置や活動の程度によって天気が大きく変わります。

平成16(2004)年の9月は前線が日本の南岸に停滞することが多く、西日本を中心に曇りや雨の天気が多くなりました(表)。一方、平成15(2003)年の9月は月の前半は前線が朝鮮半島から北日本にかけて停滞することが多く、月の後半には日本の南海上まで南下して活動が弱まったため、西日本では晴れの日が多くなりました(表)。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
2004年	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁
2003年	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁

表 9月の日中の天気(福岡)

また台風の動向によって予報が大きく変わり、大雨になるようなこともあります。台風の影響を受けるおそれがある場合には、週間天気予報でも、概況の中で台風の動向について触れることがあります。週間天気予報では、単に曇りや雨といった日々の予報にだけ注目するだけでなく、概況にも目を通すようにして下さい。さらに台風の動向を新しい予報で確認するとともに、台風情報などにも注意して行動するように心がけて下さい。